【小施策評価（令和元年度実績評価）】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策主管課等	ものづくり推進課	
施策	23	工業の振興	評価責任者	高橋　博文	内線 8120
小施策	23-3	企業集積と生産基盤の拡充促進	評価シート作成者	大矢　修	内線 8121

小施策の概要

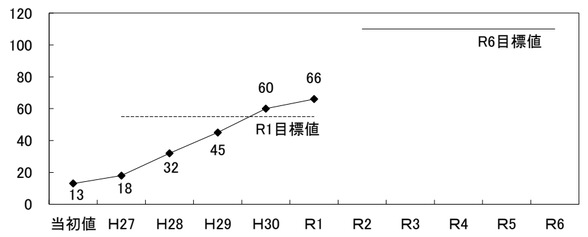
現状と課題（総合計画実施計画から転記）	⇨	取組の方向性（総合計画実施計画から転記）
地域の特性を生かした工業振興を実現するため，産学官連携研究センターなどの市の新技術・新製品開発拠点を活用する企業のほか，組込みソフト・IT関連産業，食料品製造業などの企業が市内へ立地することが求められていることから，これら企業の立地を進めるため，交通アクセスに恵まれ，付加価値の高い新たな産業等用地の整備が求められている。		市街化区域内の低・未利用地の利活用や新たな産業等用地整備により，企業が創業しやすい環境を整備し，企業誘致を推進する。
対象（誰（何）を対象として行うのか）	⇨	**意図（具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態）**
製造業等		工業団地への集積が進み，企業間連携や企業の設備等が拡充し，生産の効率化が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価（令和元年度実績）

実績値の推移

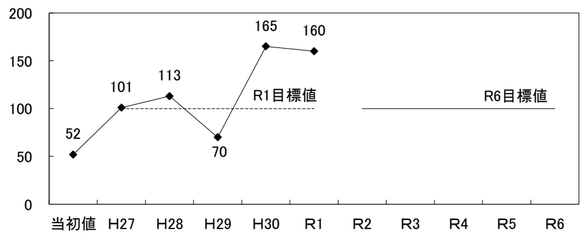
指標① 工場等新設拡充促進事業補助金の累積利用件数	単位	目指す方向
	件	↗

当初値（H25）	13	R1目標値	55	R6目標値	110



指標② 個別指導，企業訪問数	単位	目指す方向
	回	→

当初値（H25）	52	R1目標値	100	R6目標値	100



実績の評価

成果点	成果の要因分析
・令和元年度は，新たに固定資産を投下した6社を含む24社に対して，63件・61,816,760円の固定資産税相当額の補助を行った。 ・道明地区産業等用地に立地する候補者2者を選定した。	・補助企業については，企業訪問等により補助事業の情報発信を行ったことにより周知が図られ，順調に活用されたと考えられる。 ・工場の集積が図られるよう補助制度の見直しを行ったことによると考えられる。
問題点	**問題の要因分析**
・盛岡テクノパークの残地が未売却となっている。 ・製造業等の新たな企業立地が進んでいない。	・未売却となっている盛岡テクノパークの残地については，現在の用地需要と面積が合致していないこと等により，照会まではあるものの売却までは至っていないものと考えられる。 ・製造業等の企業誘致の受け皿となる産業等用地が不足している。

成果点	成果の要因分析
・配置している企業サポート専門員が，後継者問題等の企業課題を把握するため，積極的に企業にアプローチを行い企業訪問を行った。	・アンケートや補助金のフォローアップを中心に企業の状況を把握することを目的として，積極的に企業にアプローチできたため。
問題点	**問題の要因分析**
・企業の抱える課題を把握し，その課題を解決するためには，企業との信頼関係を築く必要があるが，市内の企業は製造業を中心に郊外に点在しており，定期的に訪問することが難しい。	・予算と人員が限られているため。

今後の方向性（令和2年度以降）

評価を踏まえた取組の方向性 ★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
★　盛岡テクノパークの残地について，引き続きPRに努めるとともに入居企業の用地拡充の方向性をあわせて検討する。 ★　盛岡テクノパークの残地や整備中の道明地区に工場の集積が図られるよう見直しを行った補助制度の周知に努め，製造業の企業誘致を図る。 ★　道明地区において新たな産業等用地の整備に取り組む。
★　企業訪問により，積極的に情報発信するとともに事業者の意向を確認しており，引き続き事業者への情報発信と意向の把握に努めるとともに，事業者ごとに課題等の把握に努め，情報提供や助言・指導を行う。